

令和4年度  
第2回入間市文化財保護審議委員会  
＜次 第＞

日 時 令和4年11月15日(火)  
午前10時00分～午前11時30分  
会 場 博物館 会議室

1 開 会

2 挨 拶

3 議 題

(1)諮問事項の検討について〔資料1〕

4 報 告

(1)旧黒須銀行クラウドファンディング事業の取組状況について〔資料2〕

(2)その他

5 その他

6 閉 会

## 理由書

- (1) 名 称 古谷重松奉納祭囃子祭礼図絵馬  
 (2) 員 数 1面  
 (3) 種 別 有形民俗文化財  
 (4) 所 在 地 入間市大字二本木100番地（入間市博物館寄託）  
 (5) 所 有 者 久保稲荷神社 宮司 ■ ■ ■  
 (6) 指定の理由

久保稲荷神社は、江戸時代から信仰が盛んで、近郷近在だけでなく江戸にも信者が広がり、社務所や境内等には奉納された多くの品々が残っている。

その一つに、「所澤植ノ宿古谷重松太鼓連中」が明治7年（1874）2月に奉納した、縦92センチ、横189センチの大絵馬がある。

奉納者の古谷重松（1830～91）は、幕末から明治期にかけて、所沢を中心として、その周辺特に東京都北多摩郡・南多摩郡一体に広まった「重松流祭囃子（重松囃子）」を創始した人物として知られる。重松流祭囃子の資料としては、他地域にもいくつか知られているが、初期に属するものである。

絵馬に描かれている情景は、初午の祭礼を忠実に描写したと考えられる山車行列である。山車行列は、拍子木を打つ男性2人を先導に、手古舞装束の女性2人と木遣りを唄う男性8人、大櫛を担ぐ男性8人が続く。さらに袴に菅笠姿の旦那衆（世話人）9人の後ろには、飾り立てられた1頭の牛が山車を曳いている。山車は4つ輪形式で、腰巻は紅白青の幕が下がる。屋根は唐破風形式で、鬼板は龍の彫り物、屋根の下には「奉納御寶前稲荷宮」の提灯が並び、脇障子には「松に旭」が描かれている。屋根の上は、一本柱が立ち上がり、その上の高欄には、黒色の面を被った人形（黒式尉）が立つ。高欄の岩座には牡丹の花があしらわれ、馬簾状に青い裂が垂れ下がり、その下には綿布で飾られている。山車の周囲は、運行係である男性15人、山車の後方には荷茶屋と男性2人が従っている。また、山車の見物人として、西洋人を含めた人々が描かれ、絵馬左上方の富士山を背にした社殿へ向かい、山車行列が進んでいる様を見ることができる。山車や大櫛また全体的にどこか急拵えの様子は新興的近代的な祭りの萌芽の感じさせる。

なお、描かれている大櫛に結び付けられた16枚の短冊には、14か所の地名が記されている。これは当時重松流が伝承されていた地域（所沢市、入間市、三芳町、東村山市、清瀬市、小平市、武蔵村山市、立川市、瑞穂町）と考えられ、そのうちの1枚には「ふじさわ」と書かれている。久保稲荷神社の南方1.5キロメートルには、上藤沢連中の本境地であった神明神社がある。絵馬は、上藤沢地内から久保稲荷神社への山車行列の様子が描かれているとも推測される。

近年この絵馬は、久保稲荷神社により精細な複製が作製され、調査の過程で、いままでは分からなかった躍動的な構図と美しい彩色が明らかになった。

古谷重松祭囃子奉納祭礼図絵馬は、市域にも足跡を残した重松流祭囃子の様子と、当時の祭礼風俗を知る上で貴重な資料である。

## 旧黒須銀行クラウドファンディング事業の取組状況について



- 1 実施期間 令和4年11月2日（水）～令和4年12月23日（金）午後11時
- 2 目標金額 500万円（第1目標金額）  
【11月14日時点の寄附金額 1,775,000円・支援者 92名】
- 3 実施方法 クラウドファンディング事業者「READYFOR 株式会社」と業務委託契約  
同事業者のクラウドファンディングサイトより寄附金を申込  
※クラウドファンディングサイトを利用できない方向けに「入間市文化財  
保存活用基金」への寄附を案内
- 4 その他
  - (1)ふるさと納税型クラウドファンディングとして、寄附金額の税控除ができる。
  - (2)寄附額1万円以上の方には、屋根に使用する小谷田瓦に名前を記帳（希望制）。
  - (3)市外の方向けに、「旧黒須銀行グッズ」や「狭山茶」、各種イベントへの招待券等の返  
礼品を用意。



# 第4次大將陣遺跡発掘調査報告

調査場所 河原町267番7、同番11、同番13



# 調査地全景(調査前)



# 1号住居(奈良・平安時代)



遺物検出



完掘

# 2号住居(奈良・平安時代)



床面検出



完掘

# 土坑(縄文時代ほか)



1号土坑完掘



3号土坑遺物検出



# 調査地全景(完掘後)

